

授業科目	日本語教育演習 I 【演習】	開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実際的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいいのかを知り、できるようになることを目指します。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点が置かれる。また、即戦力としての人材を育成するため、現場に即した授業の展開のしかたを念頭に進行される。授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通じた学びを目指します。また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教師としての実務をひと通り学び、主に、初級レベルの授業をひととおりにこなせるようになる。 ・<Plan-Do-See>のステップにより、日本語教師が授業前に行うこと、実際のパフォーマンス、ふりかえりというサイクルを習得する。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この科目は日本語教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	イントロダクション	初級の全体像についてふりかえる	
第2回	初級の授業の全体像	担当箇所の教案の作成	
第3回	授業案作成（1） 全ての素案を立てる	担当箇所の教案の作成	
第4回	授業案作成（2） アイデアを可視化する	模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第5回	模擬授業と検討内容（1） 第8・9課	模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第6回	模擬授業と検討内容（2） 第9・10課	模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第7回	模擬授業と検討内容（3） 第10・11課	模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第8回	模擬授業と検討内容（4） 第12課	模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第9回	模擬授業と検討内容（5） 第13課	模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第10回	模擬授業と検討内容（6） 第14課	模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第11回	模擬授業と検討内容（7） 第14・15課	模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第12回	模擬授業と検討内容（8） 第16・17課	模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第13回	模擬授業と検討内容（9） 第18課	テスト作成	
第14回	模擬授業と検討内容（9） 第19課	ふりかえり	
第15回	まとめ	レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 詳細は最初の授業で指示します。		
小テスト等	なし		
成果発表	50% 教案および模擬授業・実習を評価します。		
受講態度他	20% 学習活動への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。 また、ペアとの協働を意識し、どうすればよりよい授業ができるかを考え、積極的なディスカッションを期待します。 交換留学生を対象とす実習も実施します。積極的にコミュニケーションをはかり、日本語学習者の学習過程を観察、分析してください。</p>		
教科書	『みんなの日本語 初級 I 本冊 第2版』（スリーエーネットワーク）		
指定図書	なし		
参考図書	『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）		
オフィスアワー	火曜 5 講時	メールアドレス	

授業科目	日本語教育演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実際的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらよいのかを知り、できるようになることを目指します。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点が置かれます。また、即戦力としての人材を育成するため、現場に即した授業の展開のしかたを念頭に、授業を進めます。授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通じた学びを目指します。また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教師としての実務をひと通り学び、主に、中級・上級レベルの授業をひととおりこなせるようになる。 ・<Plan-Do-See>のステップにより、日本語教師が授業前に行うこと、実際のパフォーマンス、ふりかえりというサイクルを習得する。 			
この授業が目的としてDPや関連する科目など	<p>(3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この科目は日本語教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション	初級の全体像についてふりかえる		
第2回	中級・上級の授業の全体像	担当箇所の教案の作成		
第3回	模擬授業・初級（1）自由選択	担当箇所の教案の作成		
第4回	模擬授業・初級（2）自由選択	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第5回	模擬授業・初級（3）自由選択	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第6回	模擬授業・中級（1） J-Bridge 第2課	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第7回	模擬授業・中級（2） 中級から学ぶ日本語 第8課<導入>	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第8回	模擬授業・中級（3） 中級から学ぶ日本語 第8課<応用>	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第9回	模擬授業・中級（4） 中級から学ぶ日本語 第10課<導入>	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第10回	模擬授業・中級（5） 中級から学ぶ日本語 第10課<応用>	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第11回	模擬授業・中級（6） 文化中級日本語 第6課<導入>	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第12回	模擬授業・中級（7） 文化中級日本語 第6課<応用>	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第13回	模擬授業・中級（8） ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語	テスト作成		
第14回	交換留学生への教壇実習（上級レベル）	ふりかえり		
第15回	まとめ	レポート作成		
成績評価	割 合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 教案および模擬授業を評価します。			
受講態度他	20% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。 また、協働を意識し、どうすればよりよい授業ができるかを考え、積極的なディスカッションを期待します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）			
オフィスアワー	火曜 5講時	メールアドレス		

授業科目	法律学(国際法を含む)【講義】		開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	1. 法とは何か、法の基礎知識を学び、私たちの生活と法律のかかわりについて考える。 2. 「六法」といわれる法律と労働法、社会保障法について概要を理解する。 3. 国際法について概観する。			
到達目標	1. 憲法、行政法、民法、商法、刑法、訴訟法、労働法、社会保障法の趣旨目的について説明できる。 2. 国際法で登場する専門用語のうち基礎的なものについて正しく説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C初C幼C (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 心C (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は弁護士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	社会において法が果たしている役割	配付資料を見直して復習する。		
第2回	私たちの生活に身近な法 (1) □～婚姻・親子・戸籍・離婚を題材に～	配付資料を見直して復習する。		
第3回	私たちの生活に身近な法 (2) □～交通事故を題材に～	配付資料を見直して復習する。		
第4回	私たちの生活に身近な法 (3) ～労働法制	配付資料を見直して復習する。		
第5回	社会保障法	配付資料を見直して復習する。		
第6回	消費者保護法制	配付資料を見直して復習する。		
第7回	民事裁判	配付資料を見直して復習する。		
第8回	刑法	配付資料を見直して復習する。		
第9回	刑事裁判	配付資料を見直して復習する。		
第10回	憲法	配付資料を見直して復習する。		
第11回	国際法 (国際法はいつどこで生まれたか、国際法はどのような形で存在するか)	配付資料を見直して復習する。		
第12回	国際法 (国際法と国内法の関係、国際法の主体、国際機構、国家の基本的権利義務と国家管轄権)	配付資料を見直して復習する。		
第13回	国際法 (国家領域、海洋・空・宇宙空間等)	配付資料を見直して復習する。		
第14回	国際法 (国際人権法)	配付資料を見直して復習する。		
第15回	国際法 (戦争と国際法)	配付資料を見直して復習する。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	あり (100%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	なし (資料を配付します)			
指定図書	①谷口貴都・松原哲編著『基礎からわかる法学 [第2版]』成文堂、②渡部茂己・喜多義人編『国際法 [第2版]』弘文堂			
参考図書	講義の際に指示します。			
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス		